

イザヤ書 53:11-12 ヘブライ手紙 13:20-25

長く読み進めてきました『ヘブライ人への手紙』も本日で最後となりました。今迄の主の御守りと皆様のご寛容に心より感謝しています。そして、この手紙の最後(22~25節)に当たり、目立っている言葉は(日本語訳でははっきりしません)“パラカレオー”という言葉なのです。

22節がまさにこの言葉から始まっています。原文で紹介すれば(パラカロー デ ヒューマース=「そして、あなたがたに懇願する」)です。このパラカレオーという言葉の成り立ちは“側に招いて語る”という意味で、そこから「説得する」「懇願する」とも訳され、更にそれ故に「励ます」「慰める」とも訳されるのです。故に、ヨハネの手紙I、2章1節では「御父のもとには弁護者(=パラクレートス=パラカレオーの人物形)、イエス・キリストがおられます」やヨハネ福音書14章16節では「父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください」等、イエス様や聖霊を指し示す大事な言葉となっているのです。

実は、この節にもう一つ“パラカレオー”が登場しています。それが「以上のような勧めの言葉を受け入れてください」の「勧めの」という所が“パラカレオー(=パラカレオーの名詞形の複数)”なのです。ここでは、この手紙の著者がこれまで自分が書き進めて来た、この手紙を“懇願の言葉=勧め、励まし言葉”と自ら呼んでいるのです。

この手紙について、解説者の多くは内容的には、この手紙はこの著者が語った“説教”だと言っています。例えば、宗教改革者のルターは、この手紙の著者を、使徒言行録に登場する名説教家であるアポロにちがいないと言いました。それ程、全体が見事な説教になっていると考えたからです。

そのように言われる著者本人はしかし「どうか、以上のような勧めの言葉を受け入れてください。実際、わたしは手短かに書いたのですから。」ととても謙虚にお願いしています。

“説教”とは、『神の言葉だから聞け!』と権威的に上から目線で語られると思いがちですが、この手紙の著者の姿勢はまさに“パラカレオー=同じ所に座って語り掛ける”なのです。しかしだからこそ、ルターが指摘しているように名説教となり得るのではないのでしょうか。人の心を打つのでしょう。

手紙の最後は「あなたがたのすべての指導者たち、またすべての聖なる者たち(=信仰者)によろしく」とみんなへの挨拶が述べられ「恵みがあなたがた一同と共にあるように」と“祝福=祝祷”をもって終わっています。私たちの《礼拝》も説教者の祝祷をもって終わると同じです。説教も、そして礼拝も、そこに集うすべての人達をなんとか“励まし、慰め”たいと願いながら届けられるものではないでしょうか。

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 8月23日(水) 20:00
II. 8月24日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答
祈禱主題: 聖歌隊奉仕を覚えて
担当者: (水) 近森 (木) 飯田
祈りに覚える人: 佐々木さん 佐藤さん
*ひつじ雲の会 8月22日(火) 10:00

【教勢報告】

主日礼拝 男23 女49 計72
祈禱会 I. II. 休会
日曜学校 幼稚科3 小中科5 計8

【次週主日礼拝】 8月27日(日)

聖書: 詩編 36:1~13
ローマの信徒への手紙 3:9~20
説教: 「詩編36—命の泉はあなたにあり」
武田真治牧師
讃美歌: 17(1)、32、120(1~3)、120(4~6)、502(1~4)、29

【次週当番表】

司式: 相浦長老 奏楽: 中村 礼拝: 茨木長老
献金: 曾我 高橋 受付: 金刺 坂田
会堂準備: 大野 勝村 黒澤 鶴巻
西尾

看板: 中村 週報: 飯島

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・ダビデ会 14:00~
・礼拝/伝道/牧会/教育/社会 各委員会

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう!主に癒され、整えられて」

2023年 8月 20日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
TEL&FAX 048-771-6549
<http://www.ageo-church.org/>